

美術科学習指導案

安芸太田町立戸河内中学校 佐々木 悟

1 学 年 第2学年 30名

2 場 所 美術室

3 題材名 デザイン分野「色彩構成」

4 題材について

(1) 題材観

色彩構成はデザインの分野での基礎・基本であり，図法や画面構成の基礎を身に付けるとともに，色の性質，配色等について学ぶことができる。また，技術的には，ポスターカラーやデザインセットの使い方などの技術を身に付けさせていく上でも適した題材である。この題材は，集中して取り組むことが要求される。集中して作業したことがすぐに作品の効果として表れる点において，第2学年最初の題材としても適している。

(2) 生徒観

美術に対して苦手意識を持っている生徒は少ないが，飛びぬけて得意という生徒もいない。

課題に対して，自分の考えをイメージ化し，具体的に表現していく力を持っている生徒は数名いるが，自分のイメージに固執するあまり，制作途中で新しいアイデアが生まれにくい傾向がある。

アイデアを良く出す生徒は自分の考えをまとめあげていく力が不足している傾向にあり，作品がまとまらず，仕上がりが不十分に終わることが多い。

技能面については，ポスターカラーの使い方が十分身に付いていない生徒が多い。また，豊かな表現力を持っている生徒であっても，現状に満足してしまい，より発展的な表現へ挑戦していくことをためらう傾向がある。

(3) 指導観

今回は，基礎的な図法である一点透視図法，二点透視図法，構成では，グラデーション，リピテーション等を基本に画面構成を考えさせていく。構成する中で新しいものを考え出す発想力・創造的な思考力を身に付けさせる。具体的には，一点透視図法や二点透視図法を使って立体的な構成をさせながら，画面の中でより効果的な配置を考えさせるようにする。

また，制作していく中で，着色の手順，ポスターカラーの使い方，混色の仕方，溝引き等道具の使い方など基礎的な技能を身に付けていくことを目指す。グラデーションをつくらせることで混色技術の向上を図るとともに，用途によって面相筆，平筆，彩色筆の使い分けをさせるようにする。

5 題材の目標

(1) 新しい図法や技法を用いて意欲的に色彩構成の制作に取り組むことができる。

(2) 基本図形をもとに美しい構成を考えることができる。

(3) 図法や技法を適切に用いて色彩効果を工夫しながら表現することができる。

(4) 形や色から受ける印象，効果を感じ取ることができる。

6 題材の評価規準

観点	ア 美術への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
評価規準	<p>一点透視図法、二点透視図法等の図法に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>グラデーション、リピテーション、ドミナントとコントラスト、アクセントなど、自分の色彩構成に関心をもって表現している。</p>	<p>基本図形から応用的な形を考えている。</p> <p>形や色に統一感をもたせたり、変化を与えて美しく構成したりしている。</p>	<p>正確な図法から立体や図形をつくりだしている。</p> <p>技法や用途によって道具を適切に使っている。</p> <p>色の効果と形の変化による効果を生かして表現している。</p>	<p>形や色から受けるリズムやバランス感覚などに気付いている。</p> <p>色彩の効果を考え、表された作品から配色の工夫を感じ取っている。</p>

7 指導計画（全12時間）

次	学習内容	評価計画					
		関	発	創	鑑	評価規準	評価方法
第一次	<p>直線を使つての図法、一点透視図法、二点透視図法を使つて立体の作り方を理解し、応用して表現する。</p> <p>【2時間】</p>					<ul style="list-style-type: none"> 一点透視図法、二点透視図法等の図法に意欲的に取り組もうとしている。(ア) 正確な図法から立体や図形をつくりだしている。(ウ) 	<p>行動観察</p> <p>作図</p>
第二次	<p>アイデアスケッチを描き、アイデアスケッチを活用して下描きを完成させる。</p> <p>【2時間】(本時)</p>					<ul style="list-style-type: none"> 基本図形から応用的な形を考えている。(イ) 正確な図法から立体や図形をつくりだしている。(ウ) 	<p>行動観察</p> <p>アイデアスケッチ</p> <p>下描き</p>
第三次	<p>色の性質を理解する。</p> <p>配色の性質を理解する。</p> <p>自分の課題にあった配色計画を行う。</p> <p>着色を行う。</p> <p>自己評価カードに記入する。</p>					<ul style="list-style-type: none"> グラデーション、リピテーション、ドミナントとコントラスト、アクセントなど、色彩構成に関心をもって表現している。(ア) 形や色に統一感をもたせたり、変化を与えて美しく構成したりしている。(イ) 	<p>行動観察</p> <p>プリントへの書き込み状況</p> <p>作品</p> <p>自己評価カード</p>

【 8 時間】					<ul style="list-style-type: none"> ・技法や用途によって道具を適切に使い分けている。(ウ) ・色の効果と形の変化による効果を生かして表現している。(ウ) ・形や色から受けるリズムやバランス感覚などに気付いている。(エ) ・色彩の効果を考えて表された作品から配色の工夫を感じ取っている。(エ) 	
---------	--	--	--	--	--	--

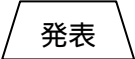
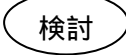

8 本時の目標

前時で習得した図法をもとに，自分の考えを明確にし，立体や図形を用いたアイデアスケッチをもとに表現を工夫して下描きを制作することができる。

9 学習の展開

1 学級 1 展開の場合

時間	学習活動	指導上の留意事項 「C」と判断した生徒への指導の手だて	評価規準	評価方法
15分	導入 目標の確認 本時の目標	生徒から目標の確認をさせる。 本時の目標の確認をする。 アイデアスケッチを活用し，下描きを制作する。 作業の手順の確認と評価の確認をする。 「授業づくりマニュアル」と照らしておこなう。		
30分 作業 	思考 アイデアスケッチを活用し下描きを行う。	個人課題カードを配付し確認をする。 アイデアスケッチをもとに画用紙へ，下描きをさせる。 アイデアスケッチを画用紙に写していくことも良いが，写す段階で出てきた発想を大切にすることを促す。 机間指導を行い，作成の指導を行う。	発・基本図形から応用的な形を考えている。(イ) 創・正確な図法から立体や図形をつくりだしている。(ウ)	制作過程の行動観察 下描きの作品

		<p>下描きが完成したら，少し離れた場所から見させる。</p> <p>班の友人に見てもらい，意見をもらうよう指導をする。</p>		
	 <p>今後の制作過程を検討する。</p>	<p>自分の課題を解決することができそうであるかを検討させる。</p> <p>ポスターカラーを塗っていけるかを検討させる。</p>		
5分		<p>授業のまとめと授業の評価を行う。</p> <p>次回の予告をする。</p>		